H15.7.25（金）朝日新聞（朝刊）

阪大、中国とデータ〝タッグ〟

多様な生物種 検索自在に

中国の多様な生物種のデータを他のデータと結び、一つのデータベースのように扱えるシステムを構築したと、大阪大サイバーメディアセンターが24日発表した。生物種の数では熱帯雨林の国々などと並んで世界有数の豊かさを誇る中国の生物資源と、日本の情報技術（IT）を組み合わせ、新薬開発や品種改良などのバイオ研究を後押しする狙いだ。

中国側の協力先は、中国科学院微生物研究所信息網絡中心（情報ネットワークセンター＝北京）。中国内で生物資源データベースづくりを進めており、すでに動植物や微生物など約2万8千種分のデータをもつ。これに、日本のDNAデータベースをつなげば、似たDNAをもつ中国の生物を簡単に検索できる。

大阪大は、回線で結んだ複数のコンピューターを、一つの巨大コンピューターのように動かして計算能力を高めるグリッド・コンピューティング技術を提供、短時間で異なるデータベースを横断的に検索できるようにした。